

参考 集団討論 具体的なテーマ別の流れ

以下のテーマは、都立高校入試の集団討論でよく扱われるものです。

タイプ別の議論の流れをおさえておきましょう。

Part 1 賛否両論型【「反対」意見の場合】

テーマ：18歳に選挙権を与えることに賛成か反対か

(18歳の選挙権はすでに認められていますが、討論の例として参考にしてください)

● 言葉の定義が曖昧なものがあれば、最初に全員で確認する

この場合の「選挙権」とは、日本の国会議員、地方自治体の議会議員・首長の選挙の投票権であることを確認します。

● 「反対」の理由を示す

18歳に選挙権を与えることには、以下のようなデメリットがある。

1. 18歳では大人とはいええない（飲酒、喫煙も禁止されている）。
2. 今の教育制度で政治的な中立性が要求されるので、それで政治的判断が可能な教育は難しい。
3. 18歳では社会経験が少なく、大局的な判断ができない。
4. 投票率がさらに下がる可能性もあり、選挙の実効性が失われる。
5. 結局はマスコミや大人の判断に流される人が多くなる。

● 「反対」意見に対する反論を挙げる（この場合は18歳選挙権に「賛成」の立場からの意見）

18歳に選挙権を与えることには、以上のようなメリットがある。

1. 18歳の若者に選挙権を与えることによって、若者の政治意識を高めることができる。
2. 民主的観点からも、できるだけ多くの人の意見を反映させた方が望ましい。
3. 若者に選挙権を与えれば、若者にも責任感が芽生える。

● メリットとデメリットの比較を行う

現状、18歳では、社会経験や政治的知識に乏しく、またマスコミや大人の偏った情報を総合的に判断する力が充分にあるとは言い難い。18歳の段階で投票権を与えることは、そのメリットを考慮してもなおその社会的・政治的な弊害の方が著しく大きいと予想される。

● 結論を示す

以上の理由から、私は、18歳に選挙権を与えることには反対である。

「反対」の立場から議論を進めたい場合は、以上のような流れを意識しておくといよいでしょう。

● 時間が余ってしまったら・・・

どのような条件がそろえば、18歳にも選挙権を与えてもいいかを考えてみましょう。

【例】

ただし、十分な政治的教育が可能になり、また社会においても政治的な情報や議論が随所でなされることが可能な状況が整備され、若者の政治意識が更に向上するという条件があれば、18歳に投票権を与えることに賛成してもよい。